

今月の PICK UP

『センス・オブ・何だあ?—感じて育つ』 三宮 麻由子/著

福音館書店 914.6 円



この本のタイトルは、レイチェル・カーソン著の『センス・オブ・ワンダー』をリスペクトしてつけられました。『「知ること」は「感じること」の半分も重要ではない。』レイチェル・カーソンのこの言葉が、著者の考え方の基本です。それは著者が4歳の時に光を失い、感じることの大切さを誰よりもよく知っていて、レイチェルに共感したからです。

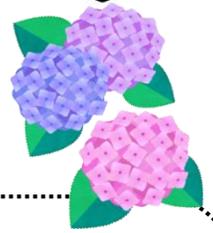
著者は視覚以外の知覚を総動員して、物事を感じ取ります。例えば足の裏はアンテナで、素足の感触からわかることや、匂いや音からわかることはたくさんあって、それらが自分を豊かにしてくれる。視覚に惑わされない感覚は、私たちにとっても大切だと教えてくれます。

『黒部源流山小屋暮らし』 やまと けいこ/著 山と溪谷社 291.4 円



北アルプスに流れる黒部川の源流域にある薬師沢小屋。夏の間、その山小屋で働いて10年以上になる作者。電波も届かないような山奥での生活ですが、日々様々なことが起こって旅がやって来る感じが楽しいと語ります。小屋開けから小屋閉めまで、山小屋の管理と登山客の対応、思わぬ野生動物との遭遇やハプニング、食事やトイレ事情など、忙しくも楽しげな様子がたくさんのイラストとともに生き生きと描かれています。

司書の おすすめ



『鯖江の眼鏡』 谷口 康彦/企画監修 加藤 麻司/取材・執筆

三省堂書店/創英社 535.8 円

眼鏡は生活必需品で体の一部ですという方は、鯖江の眼鏡をご存知でしょうか。イタリア、中国と並び、福井県鯖江市は世界3大産地にあげられています。

本書は、産地誕生のルーツから、フレームの製造工程まで、鯖江眼鏡の全てが分かる福井県眼鏡協会公式ガイドブックです。ちなみに、フレームが出来上がるまでに250から300の工程があり、検査の数を足せばその何倍にもなるそうです。品質主義の精神が鯖江の眼鏡をささえているんですね。



『自由にはたらく副業アイデア事典』 中野 貴利人/著 SBクリエイティブ 366.2 円

副業をしてみたいと思ったことはありませんか。何ができるかなと思われたら、この本をめくってみてはいかがでしょうか。「書く」「描く」「作る」「サポートする」「教える」等、100の副業がカテゴリ別にまとめられ、始め方、利点・欠点がそれぞれに解説されています。こんな副業もあるのか、と驚きながら楽しく読めます。



『たぬき』 いせ ひでこ/著 平凡社 726.6 円

東日本大震災が起こった年の春、画家が暮らす家の庭に、たぬきの一家があらわれました。草木生い茂る庭で、子を産み、育て、懸命に生きるたぬきたち。その姿を見つめ、スケッチした「たぬ記」からこの絵本は生まれました。まるで幻燈のような、けれど確かに存在した、小さな「いのち」たちのおはなし。

